



## 上郷宿泊体験学習から

校長 平石 英一

少し前までの夏の暑さが嘘のように、季節はあっという間に晩秋を迎えました。秋晴れと言われる日は、朝晩の気温がぐっと下がるそうですが、あの暑さに耐え抜いた体も、ジェットコースターのような気温の変化にびっくりしています。そして、過ごしやすい季節になってきたことには間違いないのですが、まだまだ感染症対策は続けなければなりません。

ところで、10月26日から、児童運営委員会の皆さんが、毎朝登校する児童に向かって、元気よく、大きな声ではっきりと聞こえるように、「おはようございます！」と呼び掛けています。挨拶を進んで交わそうとする姿が影を潜めている様子が気になる昨今ですが、運営委員会の皆さんの姿から、爽やかに挨拶をすることの心地よさを全校児童が感じ取り、気持ちの良い挨拶を交わす習慣を高めてほしいと願っています。

さて、実施に向けて難しい判断を迫られていた宿泊体験学習ですが、秋の陽射しを浴びながら、10月26日・27日に4年生が、28日・29日に5年生が、それぞれ一泊二日で「上郷森の家」に行ってきました。当初の目的地を変更することとなりましたが、何よりも実施にこぎつけられたこと、本当に良かったと思います。そして、4年生にも5年生にも、たいへん大きな成長が見られた有意義な二日間でした。

次の活動が把握できていない子にそっと教えてあげる姿、自分のことよりも先に同部屋の子のシーツを協力して畳もうとする姿、部屋の入口の靴を丁寧に並び直そうとする姿、「みんな急な坂だから気を付けて!」「足、大丈夫?」「自分のペースで登って来ていいからね!」などとハイキングの時にメンバーに呼びかけるリーダーの姿…。手伝ってもらったり、声をかけてもらったりした子は、それは嬉しそうでした。周りの状況を見ながら、自分のことはさておき、人のために行動しようとする、温かな心遣いをする子どもたちの姿に、私自身幸せな気持ちをたくさん味わわせてもらいました。

折しも、今4年生は国語教材で半世紀以上にわたって教科書に掲載されている「ごんぎつね」を学習しています。ひとりぼっちのいたずらぎつね「ごん」が、同じように母親を亡くし一人になった「兵十」に親近感をもち、いたずらの償いを兵十に気づかれないようにするのですが、いくら誠意を尽くしても兵十には通じず、最後はその兵十に撃たれて死んでしまいます。この悲しい結末をあえて作者の新美南吉が選んだのは、『世の中には尽くしても尽くしても理解してもらえないことがあるのだよ。』という思いがあったからだそうです。

誠意や真心を尽くしても、相手に通じなかったり、報われなかったりすることはままあります。また、報いを求めない真心で、人と人が関わり合うことは難しいことでもあります。

しかし、先述した子どもたちは、自分の施しに対して見返りを求めようとする、いわゆるGive & Takeの考えがあって行動したのでしょうか。そうではなく、純粹に相手への思いやりや配慮を行動、言動で示しただけでした。そして、その優しく温かな思いが相手に通じたことにほかなりません。南吉が、『尽くしても報われないことがある』と「ごんぎつね」の中で伝えていることも納得できますが、『無償の思いが相手に通じる』ということ、子どもたちに伝えていくことも大切だと捉えます。

宿泊体験学習の子どもたちの姿から、たくさんのお話を学ばせてもらいました。感謝です。